

米どころ福島の

新着レポート!

～ 創刊準備号 ～

FREE

送付元：福島県消費拡大推進会議
(事務局：福島県農産物流通課)

発行日：2025年3月

今春から新たに「米どころ福島」の新着レポートとし、福島県産米に関する産地情報やキャンペーンなどを広く関係者の皆様に発信をさせていただきます。

福島県の特徴と米作り



令和6年産米の 地域ごとの 作付面積と収穫量

会津地方

作付面積	21,500ha
収穫量	131,100t

中通り

作付面積	33,600ha
収穫量	184,300t

浜通り

作付面積	7,690ha
収穫量	41,400t

東北農政局作物統計調査より。
※作付面積及び収穫量は、主食用米・飼料用米・備蓄米・加工用米等の合計。

会津地方

中通り

浜通り



福島県断面図

※断面図はイメージです。

福島県は東から阿武隈高地、奥羽山脈、越後山脈がそびえ、大きく三つの地方（太平洋に面した「浜通り」、県央の「中通り」、内陸の「会津」）に分けられます。この三つの地域では気候が異なり、それぞれ特色を生かした米作りをしています。

会津

夏から秋にかけて、昼夜の温度差が大きい会津盆地は、米の成熟に最適な気象条件を満たしています。盆地気候特有の朝晩と昼の温度差によって、甘みのある良質な米が育れます。均一で質の高い「会津米」が収穫できるのが、この地域の最大の特徴です。

中通り

夏から秋にかけての気温差が大きい気候が、米の旨み成分を豊かにします。この地域は、良質な粘土質の田んぼが多く、また清らかな水にも恵まれ、食味の優れた米が穫れます。良食味を保つために、常に適正な収量水準となるよう、肥培管理を徹底しています。

浜通り

太平洋側に面しており、年間を通して比較的気候が安定しているため、常に良質な米が穫れます。浜通りは、耐冷性の強い品種選定と肥培管理で、やませ（冷たく湿った風）の被害を克服し、品質や収量の安定した米づくりが行われています。

トピックス

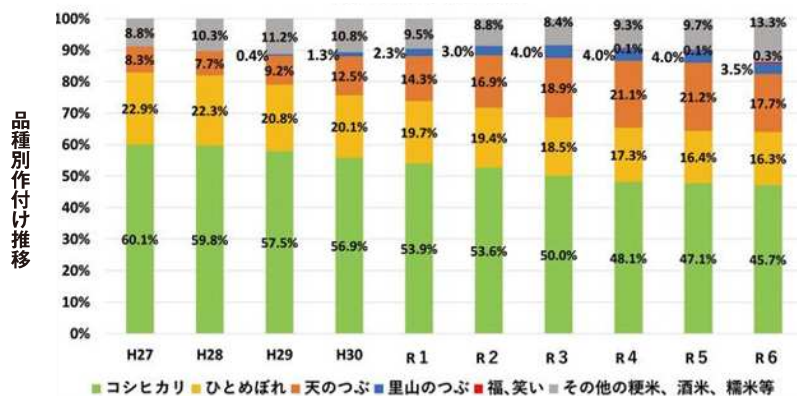
福島県産米の品種は？

福島県は「コシヒカリ」を中心とした栽培がおこなわれていますが、近年は「天のつぶ」を始めとする福島県オリジナル品種の作付割合が徐々に拡大しています。（福島県、水田畑作課「種子注文数量」からの推計）

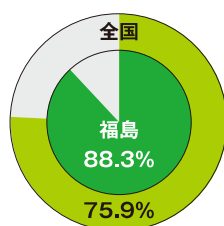
1等米比率が高い

福島県の米の品質は高く、うるち米の1等米比率は全国平均を大きく上回っています。そのなかでも福島県トップブランド米「福、笑い」は出荷・品質基準達成のため、生産者のためめめ努力により1等米比率が95%を超えています。

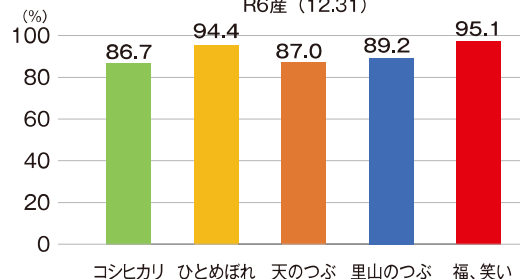
※「福、笑い」に関して、令和6年産より1等米であることが「福、笑い」として販売するための条件となっています。



うるち米の1等米比率
R6産（12.31）



品種別1等米比率
R6産（12.31）



福島県オリジナル品種

『天のつぶ』



県内全域で栽培されていて、白未熟米の発生が少なく、倒伏もしにくいことから、天候に左右されにくい安定した品質と数量が見込めます。粘りが少なく、ぱらりとした炊き上がりのため、一粒一粒の存在感を楽しめる程よい硬さが特徴です。

『福、笑い』



「ふくしまの米」のトップブランドに位置づけられるお米で、厳しい要件をクリアした限られた登録生産者によってのみ生産されています。日本一の米を目指し「かおり、あまみ、ふくよかさ」にこだわって開発された「福、笑い」は、炊き上がりがふんわり柔らかな、これまでにない食感・食味が魅力です。

福島県米消費拡大推進会議とは

福島県米消費拡大推進会議は、福島県と生産者団体、集出荷団体等で構成する団体です。県産米販売促進キャンペーンの企画・運営やキャンペーンクルー「ふくしまライシーホワイト」による県産米のPR活動を行っています。

<会員>福島県農業協同組合中央会、全国農業協同組合連合会福島県本部、福島県米穀肥料協同組合、福島県米麦事業協同組合、福島第一食糧卸協同組合、ほか特別会員15団体

今後お知らせする内容

- 福島県産米の生育情報
- 福島県内の気象状況
- 福島県産米の生産に関するトピックス
- 福島県産米のキャンペーンやPRの取り組みに関するお知らせ

ご意見・お問い合わせ

このDMに関してご意見がございましたら、ぜひフォームからご連絡ください。また、次回以降、電子メールでの送付のご希望であればフォームからご連絡ください。



配信停止はこちら

